厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究

Socio-Epidemiological Studies on Monitoring and Prevention of HIV/AIDS

平成 13 年度研究報告書

主任研究者

木　原　正　博

(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻国際保健学講座)

平成13年度厚生労働省HIV社会疫学研究班構成名簿

(注)氏名横の*印は所属グループが複数の場合　　2002年3月現在

氏名	所属	職名	〒	住所	電話	内線	FAX	e-mail
班長　木原 正博	京都大学大学院医学研究科国際保健学	教授	606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	poghse@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
動向解析グループ								
橋本 修二	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学	助教授	113-0033	文京区本郷7－3－1	03-5841-3519		03-3814-2779	hasimoto@epistat.m.u-tokyo.ac.jp
福富 和夫	国立公衆衛生院	特別研究員	177-0051	練馬区関町北3－50－8	03-3920-4943		03-3920-4943	
中村 好一	自治医科大学公衆衛生学	教授	329-0498	栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1	0285-58-7337		0285-44-7217	nakamuyk@jichi.ac.jp
木村 博和 *	横浜市立大学医学部公衆衛生学	助手	236-0004	横浜市金沢区福浦3－9	045-787-2610		045-787-2609	hkim@med.yokohama-cu.ac.jp
市川 誠一 *	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	教授	241-0815	横浜市旭区中尾1－5－1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
城所 敏英	中野区南部保健福祉相談所	所長	164-0013	東京都中野区弥生町2-41-2	03-3380-5551		03-3380-5532	CXC00417@nifty.ne.jp
木村 哲	東京大学大学院医学系研究科感染制御学	教授	113-0033	文京区本郷7－3－1	03-5800-8800		03-5800-8799	skimura-tky@umin.u-tokyo.ac.jp
岡 慎一	国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター	部長	162-8655	新宿区戸山1－21－1	03-5273-5193		03-5273-5193	oka@imacj.hosp.go.jp
白阪 琢磨	国立大阪病院総合内科	医長	540-0006	大阪市中央区法円坂2-1-14	06-6942-1331		06-6946-3589	sirasaka@onh.go.jp
松山 裕	京都大学大学院医学研究科医療統計学	助教授	606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4482		075-753-4487	matuyama@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
岩名 輝美恵	東京都衛生局医療福祉部感染症対策課	係長	163-8001	東京都新宿区西新宿2-8-1第1本庁舎27F	03-5320-4487		03-5388-1432	
梅田 珠美	神戸市保健福祉局	参事	650-0001	神戸市中央区加納町6-5-1	078-322-6316		078-322-6010	
長谷川 嘉春	相模原市保健所保健予防課	主幹	229-8611	神奈川県相模原市中央2丁目11番15号	042-769-8346		042-750-3066	
田村 嘉孝	大阪府健康福祉部地域保健福祉室	技師	540-8570	大阪市中央区大手前2-1-22	06-6941-0351			
渡辺 晃紀	栃木県保健環境センター企画情報部		329-1196	栃木県河内郡河内町下岡本2145-13	028-673-9070		028-673-9071	teruki-w@mub.biglobe.ne.jp
谷原 真一	島根医科大学医学部環境保健医学第一講座	助教授	693-8501	島根県出雲市塩冶町89-1	0853-20-2162		0853-20-2160	taniyan@shimane-med.ac.jp
増田 剛太	東京都立駒込病院感染症科	部長	113-0021	東京都文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		03-3824-1552	taniyan@jichi.ac.jp
相楽 裕子	横浜市立市民病院感染症科	部長	240-8555	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961		045-332-5599	hsagara@kk.iij4u.or.jp
岩本 愛吉	東京大学医科学研究所付属病院	教授	108-8639	東京都港区白金台4-6-1	03-5449-5359		03-5449-5427	
坂本 光男	横浜市立市民病院感染症科		240-8555	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961		045-331-1960	
藤 純一郎	国立大阪病院総合内科		540-0006	大阪市中央区法円坂2-1-14	06-6942-1331		06-6946-6467	junto@onh.go.jp
村上 未知子	東京大学医科学研究所付属病院		108-8639	東京都港区白金台4-6-1	03-3443-5697			odamari@tky2.3web.ne.jp
山口 拓洋	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学	助手	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1	03-5841-3520		03-3814-2779	yamaguti@epistat.m.u-tokyo.ac.jp
MSMグループ								
市川 誠一 *	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	教授	241-0815	横浜市旭区中尾1－5－1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
一居 誠	大阪府健康福祉部感染症・難病対策課	課長	540-8570	大阪市中央区大手前2-1-22	06-6941-0351	2541	06-6942-5764	
井戸田一郎	東京女子医科大学感染対策科		162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-811		03-3353-8995	
今井 光信	神奈川県衛生研究所ウイルス部	部長	241-0815	横浜市旭区中尾1－1－1	045-363-1030	511	045-363-1037	
岩名 輝美江	東京都衛生局医療福祉部エイズ対策室	課務担当係長	163-8001	新宿区西新宿2-8-1 都庁第一庁舎27F北側	03-5320-4487		03-5388-1432	
鬼塚 哲郎	京都産業大学/MASH大阪	助教授/代表	530-0027	大阪市北区堂山町17-5 巽ビル202	06-6361-9300			
鬼塚 直樹	CAPS International Program, UCSF		74 New Montgomery St. Suite 600, San Francisco, CA 9410		415-597-9207		415-597-9125	www.caps.ucsf.edu/caps web
木原 雅子 *	広島大学医学部公衆衛生学教室	講師	734-8551	広島市南区霞1-2-3	075-753-4350		075-753-4359	
木原 正博 *	京都大学大学院医学研究科国際保健学	教授	606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	poghse@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
木村 博和 *	横浜市立大学医学部公衆衛生学教室	助手	236-0004	横浜市金沢区福浦3－9	045-787-2610		045-787-2609	hkim@med.yokohama-cu.ac.jp
佐藤 未光	東京大学医科学研究所/MASH東京	研究員/代表	160-0022	新宿区新宿5-8-20 第一島田ビル406号	03-3226-8998			
日高 庸晴	京都大学大学院医学研究科国際保健学		606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	
日笠 聡	兵庫医科大学総合内科	助手	663-8501	兵庫県西宮市武庫川町1-1	0798-45-6592		0798-45-6593	
守尾 輝彦	新宿区保健所 衛生課	主査	160-8581	新宿区内藤町87	03-3341-3959		03-3361-8835	
山口 剛	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122		03-3377-0821	
滞日外国人グループ								
木原 正博 *	京都大学大学院医学研究科国際保健学	教授	606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	poghse@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
岩木 エリーザ	CRIATIVOS	代表	241-0821	横浜市旭区二俣川1-82-21	045-360-2094		045-360-2093	elisaai@beige.ocn.ne.jp
津島 真利絵	CRIATIVOS		241-0821	横浜市旭区二俣川1-82-21	045-360-2094		045-360-2093	
栄口 ルイサ	CRIATIVOS		241-0821	横浜市旭区二俣川1-82-21	045-360-2094		045-360-2093	
エリデッセ小貫	CRIATIVOS		241-0821	横浜市旭区二俣川1-82-21	045-360-2094		045-360-2093	
市川 誠一 *	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	教授	241-0815	横浜市旭区中尾1－5－1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
大屋日登美	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾1－5－1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
木原 雅子 *	広島大学医学部公衆衛生学	講師	734-8551	広島市南区霞1-2-3	075-753-4350		075-753-4359	

氏名	所属	職名	〒	住所	電話	内線	FAX	e-mail
IDU(入院患者)ｸﾞﾙｰﾌﾟ								
和田　清	国立精神・神経センター精神保健研究所	部長	272-0827	市川市国府台1－7－3	047-375-4750		047-375-4764	kwada@ncnp-k.go.jp
分島　徹	都立松沢病院精神科	部長	156-0057	世田谷区上北沢2－1－1	03-3303-7211		03-3329-7586	
前岡　邦彦	瀬野川病院	副院長	739-0323	広島市安芸区中野東4－11－13	082-892-1055		082-892-1390	
石橋　正彦	十全病院	院長	816-0942	福岡県大野城市中央1丁目－13－8	092-581-1445		092-591-5258	
小田　晶彦	国立下総診療所	医師	266-0007	千葉市緑区辺田町578	043-291-1221			
中村　恵	茨城県立友部病院	医師	309-1717	茨城県西茨城郡友部町旭町654	0296-77-1151			
STDクリニック受診者グループ								
熊本　悦明	札幌医科大学医学部泌尿器科	名誉教授	060-0061	札幌市中央区南1条西17丁目	011-611-2111	3475	011-612-2709	
献血者・妊婦等グループ								
清水　勝	杏林大学医学部臨床病理学・中央検査部	客員教授	181-8611	三鷹市新川6-20-2	0422-47-5511	2834	0422-44-0635	katcan@pc4.so-net.ne.jp
池田　久實	北海道赤十字血液センター	所長	063-0002	札幌市西区山の手二条2-3-37	011-613-6121		011-613-4131	
中村　榮一	東京都赤十字血液センター	所長	150-0012	渋谷区広尾4-1-31	03-3406-1211			
神谷　忠	愛知県赤十字血液センター	副所長	489-0965	瀬戸市南山口町539-3	0561-84-1131		0561-84-3912	
矢内　純吉	大阪府赤十字血液センター	所長	536-0025	大阪市城東区森之宮2-4-43	06-6962-7702		06-6968-4900	
清川　尚	船橋市立医療センター	所長	273-0853	船橋市金杉1-21-1	047-438-3321		047-430-2518	
行動科学ｸﾞﾙｰﾌﾟ								
木原　雅子＊	広島大学医学部公衆衛生学	講師	734-8551	広島市南区霞町1-2-3	075-753-4350		075-753-4359	
木原　正博＊	京都大学大学院医学研究科国際保健学	教授	606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	poghse@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
山崎　浩司	京都大学大学院人間・環境学研究科	研究員	606-8501	京都市左京区吉田二本松町	075-753-6533			
荒木　善光	京都大学大学院医学研究科国際保健学		606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	
本間　隆之	京都大学大学院医学研究科国際保健学		606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	
今井　敏幸	MASH大阪		530-0027	大阪市北区堂島町17-5 巽ビル202	06-6361-9300			
吉嶺　敏子	京都大学大学院医学研究科国際保健学		606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	
小松　隆一	国立社会保障人口問題研究所		100-0011	東京都千代田区内幸町2-2-3	03-3503-1700			
日高　庸晴	京都大学大学院医学研究科国際保健学		606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	
内野　英幸	長野県大町保健所	所長	398-0002	大町市大町1058-2	0261-22-5111		0261-23-2266	uchino@auisnet.or.jp
市川　誠一＊	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	教授	241-0815	横浜市旭区中尾1－5－1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
大屋日登美＊	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾1－5－1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
前田　規子	長崎大学医学部保健学科看護学	助手	852-8523	長崎市坂本1-7-1				
CSWｸﾞﾙｰﾌﾟ								
池上千寿子	ぷれいす東京	代表	169-0075	新宿区高田馬場4-22-46-304	03-3361-8964		03-3361-8835	ptokyo@go.l.com
桃河モモコ	SWASH		606-8205	京都市左京区田中上柳町20-2 北川ハウス101	075-723-2592		075-723-2592	
木原　正博＊	京都大学大学院医学研究科国際保健学	教授	606-8501	京都市左京区吉田近衛町	075-753-4350		075-753-4359	poghse@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
木原　雅子＊	広島大学医学部公衆衛生学教室	講師	734-8551	広島市南区霞町1-2-3	075-753-4350		075-753-4359	
沢田　司	SWASH		606-8205	京都市左京区田中上柳町20-2 北川ハウス101	075-723-2592		075-723-2592	
水島　希	SWASH		606-8205	京都市左京区田中上柳町20-2 北川ハウス101	075-723-2592		075-723-2592	
要　友紀子	SWASH		171-0044	豊島区千早2-23-14-101	03-3503-9063			
特別研究								
井上　洋士	東京大学大学院医学系研究科健康社会学		113-0033	東京都文京区本郷7-3-1	03-5841-3514		03-5684-6083	

目　次

主任研究者総括：HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究……木原正博……1

分担研究者報告

動向解析グループ総括：HIV感染症の発生動向解析に関する研究……橋本修二・他……15
日本国籍者のHIV/AIDSの特徴―サーベイランスによる先進諸国との比較―……松山　裕・他……23
保健所におけるHIV抗体検査に対するC型肝炎ウイルス抗体検査の影響……中村好一・他……35
保健所におけるHIV抗体検査受診者調査（中間報告）……中村好一・他……39
HIV/AIDS医療費に関する研究（中間報告）……木村博和・他……50
HIV感染症患者の医療関連支出に関する研究……木村博和・他……53
HIV/AIDSの受療動向に関する静態調査
―HIV感染症の医療体制に関する研究班との共同研究―……山口拓洋・他……59
HIV/AIDSの近未来予測の基礎的検討……橋本修二・他……65
HIV感染から自覚までの期間およびAIDS発病前の検査受診状況……橋本修二・他……72

MSMグループ（要約）：男性同性間におけるHIV感染の動向と予防介入に関する疫学研究……市川誠一・他……77
総括：男性同性間におけるHIV感染の動向と予防介入に関する疫学研究……市川誠一・他……82
定点医療・検査機関におけるサーベイランス……岩名輝美恵・他……106
東京地域におけるHIV/STD感染の予防介入
―MASH東京の予防啓発活動について……佐藤末光・他……116
大阪地域におけるHIV/STD感染の予防介入……鬼塚哲郎・他……120
MSM向け臨時HIV/STD予防相談・検査（switch2001）の受検者の特徴……木村博和・他……126
インターネットによるMSMのコンドーム使用行動の
心理・社会的要因に関する研究……日高康晴・他……137

滞日外国人グループ：在日ラテンアメリカ人のHIV/STD関連知識、行動及び予防・支援対策の
開発に関する研究（ラテン・プロジェクト）……岩木エリーザ・他……150
滞日タイ人のSTDおよびHIV/AIDS関連知識、行動及び
予防・支援対策の開発に関する研究（タイ・プロジェクト）……小堀栄子・他……167
新宿区保健所の外国人に対するHIV抗体検査・HIV/AIDS相談事業……河野弘子・他……171

ＩＤＵグループ総括：薬物乱用・依存者におけるHIV感染の実態とハイリスク行動に
ついての研究……和田　清・他……178

STDグループ総括：STDクリニック受診者を対象とするHIV/STDの相関連性の血清疫学的研究……熊本悦明・他……197

献血者・妊婦等グループ総括：献血者・妊婦に関する研究……清水　勝・他……206
北海道内の献血集団におけるHIV抗体陽性率の推移とその解析……池田久實・他……215
献血者集団におけるHIV陽性例と自己申告例から見た現状分析について……中村榮一・他……220
中部地域献血者集団におけるHIV抗体陽性率の推移とその解析……神谷　忠・他……225
献血者集団におけるHIV検査状況……矢内純吉・他……236

行動科学グループ総括：若者のHIV/STD関連知識・行動・予防介入に関する研究……木原雅子・他…… 240
研究①-1 地方の高校生の日常生活・性常識・性行動に関する調査
―報告1：A県調査結果―……木原雅子・他…… 242
研究①-2 地方の高校生の日常生活・性意識・性行動に関する調査
―報告2：B県調査結果―……木原雅子・他…… 257
研究② 都会の若者に対するクラブイベント調査……木原雅子・他…… 269
研究③ サンフランシスコおよびその近郊在住日本人留学生の
性的健康に関する研究……日高康晴・他…… 279
研究④ 親・子・教師の意識・知識の違いに関する調査（地方B県）……木原雅子・他…… 288
研究⑤ 性教育実態調査（地方A県・B県）……木原雅子・他…… 297
研究⑥ 高校生に対する予防介入研究（地方B県）……木原雅子・他…… 303
研究⑦ フォーカス・グループ・インタビューを用いた予防介入の
評価検討（地方B県）……山崎浩司・他……311
研究⑧ 性行動に関する質問紙調査の信頼性の検討……吉嶺敏子・他…… 334
資料1. 全国高校生エイズ予防のための基礎調査アンケート…… 342
資料2. エイズ予防のための基礎調査アンケート（生徒用）…… 348
資料3. エイズ予防のための基礎調査アンケート（男性保護者用）（注：女性保護者用も同じ）…… 356
資料4. エイズ予防のための基礎調査アンケート（先生用）…… 359
資料5. 性教育に関する基礎調査アンケート（中学校用）（注：小学校、高校用も同じ）…… 362
資料6. エイズ予防のための基礎調査アンケート（生徒フォローアップ用）…… 367
SWグループ総括：日本在住のSWにおけるHIV/STD関連知識・行動及び予防・支援対策の
開発に関する研究……池上千寿子・他…… 374
性風俗産業で働いている女性のHIV/STDに関する意識行動調査……水島　希・他…… 375
セックスワーカーのSTD勉強会……沢田　司・他…… 384
保健婦及び、HIV/AIDS電話相談担当者むけ
パンフレット作成に関する予備調査……桃河モモコ・他…… 387
ホームページSWASHの開設……水島　希・他…… 389
特別研究
HIV感染者のQOLに関する研究……井上洋士・他…… 391
研修プログラム
予防介入研修：HIV Prevention Intervention Development Training Program(1)……Kung-Hee Choi…… 395
予防介入研修：HIV Prevention Intervention Development Training Program(2)……Kung-Hee Choi…… 401
Susan Kippax
教育講演：he Role of Social Research in the Australian Response to HIV and AIDS……Susan Kippax…… 404
資料編
HIVの検査法と検査体制を確立するための研究……今井光信・他…… 416
平成13年エイズ発生動向年報（平成13年1月1日～12月31日）……厚生労働省エイズ動向委員会…… 427

厚生科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)
平成 13 年度総括研究報告書

HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究

主任研究者：木原正博（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻国際保健学講座）

【研究要旨】
わが国の、HIV 感染症流行の現状・将来動向、個別施策層に対する有効な予防介入についてのエビデンスを示し、有効かつ効率的な行政施策の発展に資することを目的として研究を行った。様々な個別施策層を対象とした 10 プロジェクトから、以下の成果を得た（下線部が本年度特記すべき成果)。

【研究成果】

■プロジェクト 1: HIV 感染症の発生動向解析に関する研究
①先進国に比べたわが国の HIV/AIDS 動向の特徴を明らかにした。②1998 年予測とその後の実際の動向を比較し、かつ新しい補足率算出法を開発した。③病期別の平均外来医療費を示した。④わが国の拠点病院における 2001 年４月現在の HIV/AIDS 受療者数（4,100 人）を明らかにした。⑤保健所 HIV 検査受験者の、属性、受検理由を明らかにした。

■プロジェクト 2: MSM の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究
①エイズ動向調査や HV 検査受検者の感染率から MSM の流行動向を示した。②MASH 大阪プロジェクトによって、検査行動の変容が生じたこと、セイファーセックスに向けた意識・態度・行動変容が生じつつあることを示し、MASH 大阪による予防介入の初期効果を確認した。③東京 MASH のプログラム開発を進展させた。④日本人 MSM の性行動や HIV 関連環境を日米比較し、それぞれの特徴を明らかにした。⑤インターネットによる量的・質的調査により、利用層の性行動や心理・社会的問題を明らかにした。

■プロジェクト 3: 来日外国人の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究
①日本-ブラジル共同プロジェクトを始動し、予防介入用マスメディア資材の開発、学校ベースの予防介入の準備、予防介入人材育成のための研修、感染者支援のためのアンケート調査、コンドームのソーシャルマーケティングのための調査・製品開発を行った。②予防介入企画に必要な滞日タイ人コミュニティー調査を実施した。

■プロジェクト 4: 薬物乱用・依存者の HIV/STI 感染率及び行動に関する研究
①研究開始以来初の HIV 感染者を確認（ただし性感染)。②回しうちは減少しつつも、依然高く、あぶり使用が高率で定着したことを示した。③風俗、不特定との性交渉が活発であることを示した。

■プロジェクト 5: STD 患者の HIV/STI 感染率及び行動に関する研究
①STD 患者中の HIV 感染率の増加傾向を示した。②梅毒と HIV の高い合併率を示した。

■プロジェクト 6: 献血及び妊婦に関する研究
①献血血液の HIV 抗体陽性率が、都内、初回献血者で特に高いことを示した。②各種のデータソースから、わが国の妊婦の HIV 感染率を推定した。

■プロジェクト 7: 若者の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究
①地方高校生も都会に劣らず性行動が活発だが、予防意識が低いことを示した。②クラブに集まる若者には、性行動が極めて活発で、クラミジア感染率が高い層のあることを示した。③日本人米国留学生は、性行動が無防備で薬物使用も多いことを示した。④親・子・教師間に性意識に大きなギャップが存在することを示した。⑤小中高の性教育調査から、教育と子供の現実との時期のズレ、コンドーム教育の不足を示し、教育担当者に必要な支援のあり方を示した。⑥一部の高校でソーシャルマーケティングに準ずる予防介入研究を実施し、予防効果に関しわが国初のエビデンスを得た。知識と行動が必ずしも結びつかな

いこと、学年が若いほど、行動変容が生じやすいことが示唆された。⑦高校の予防介入効果をフォーカスグループインタビューによって評価し、コンドームについて、好まれる種類、使用目的、男女コミュニケーションの重要性等を示唆する結果を得た。⑧性行動質問紙調査に高い信頼性のあることを確認した。

■**プロジェクト8: セックスワーカーのHIV/STD関連知識・行動および予防介入に関する研究**

①15ヘルス店舗（東京）、1医院（大阪）での質問紙調査により、セックスワーカー（SW）の知識・態度・予防行動やその障害を調査した。②STD等に関する定期勉強会を実施し、運営の改善に資する経験を得た。③相談機関向けの対SW相談用パンフレット作成のための基礎調査を実施した。

■**プロジェクト9: 特別研究（HIV感染者の行動やQOL向上に関する研究）**

昨年度実施した予備調査（属性、特性、健康状態、社会関係、性行動、抑うつ・不安等）の結果を討論・吟味し、次年度の大規模調査のプロトコールを作成した。

■**プロジェクト10：予防介入研究研修プロジェクト**

海外の専門家（Dr.K-H Choi, カリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ予防研究センター）による予防介入研修プロジェクトを2回、教育講演(Dr.Kippax, オーストラリア国立HIV社会学研究センター)を1回実施し、予防介入研究の技術と理論的向上を図った。

【総括】

各プロジェクトで所期の成果を達成したが、本年度は、とりわけ予防介入研究に重要な進展が見られた。MSMプロジェクトでは、MASH大阪の数年間の取り組みが、意識や行動の変容として現われ始めており、若者プロジェクトでは、性行動、性意識、性教育の研究に新境地を拓くとともに、わが国で初めて学校ベースの予防介入で行動変容のエビデンスを示すことができた。また、滞日外国人プロジェクトでは、ブラジル政府との共同研究が開始され、多角的な予防介入プロジェクトが始動した。また、研究の進展において、国際的専門家による研修が重要な効果をもたらした。これらは、わが国における予防の具体的展望を拓いた点で、学術的にも行政的にも重要な成果であると考えられる。

分担研究者

橋本修二（東京大学大学院医学系研究科）
市川誠一（神奈川県立衛生短期大学衛生技術科）
和田　清（国立精神・神経センター精神保健研究所）
熊本悦明（札幌医科大学、性と健康医学財団）
清水　勝（杏林大学医学部）
木原雅子（広島大学医学部）
池上千寿子（特定非営利活動法人ぷれいす東京）

A. 研究目的

わが国の、①HIV感染症流行の現状・将来動向、②個別施策層について、HIV/STD関連知識・リスク行動の実態や有効な予防介入についてのエビデンスを示し、効果的かつ効率的な行政的施策の発展に資する。

B. 研究方針

(1) 現状で可能な最善のサンプル・データを用いて、わが国の様々なグループのHIV感染症の動向について検討する。

(2) 質的研究と量的研究の統合、準実験的研究デザイン、ソーシャルマーケティング、行動理論、当事者参加の原則等により、わが国の社会文化に適合し、かつ最も進化したHIV予防介入方法のエビデンスを提供する。

C. 研究の概要

9のプロジェクトを実施した。

■ プロジェクト1: HIV感染症の発生動向解析に関する研究（分担研究者：橋本修二）

◆エイズ発生動向調査の解析

【目的】エイズ動向調査の分析を通して、わが国のHIV流行の特徴を明らかにすること。

【方法】2000年末までのサーベイランスデータを

用いて、日本国籍者のHIV/AIDSの特徴（年次推移、性、年齢、感染経路）を先進国（9ヶ国）と比較した。HIV 感染者への質問票調査により、HIV感染から自覚までの期間およびAIDS発病前の検査状況を検討した。

【結果】日本国籍のHIV/AIDSは、先進国と比較して、年次推移が増加傾向（先進国では減少）、40歳以上の割合が大きい、異性間性的接触の男の割合が大きいなどの際立った特徴が見られた

◆将来予測

【目的】エイズ動向調査データに基づく推計・予測法の検討と推計・予測の実施。

【方法】近未来予測の基礎検討として、1998年実施の予測値を2000年までの推計値と比較しその妥当性を吟味した。また、HIV感染報告の捕捉率の算定方法として、初回AIDS報告に基づく方法を提案し、転症例に基づく方法（従来の方法）と比較した。

【結果】①1998 年実施の予測値に比べて、1999年、2000年の推計値は、HIVはやや少なく、AIDSはやや多かったが、いずれも予測範囲内であった。②1996年までの報告を用いたHIV感染者全体数／捕捉数は、初回AIDS報告に基づく方法では5.2と推定され、転症例に基づく方法のそれ5.1とほぼ同一であり、新しい方法の有用性が示された。

◆医療費調査

【目的】HIV 感染症の医療経済的インパクトを分析する。

【方法】5医療施設で同意を得た患者のレセプト及びカルテ調査を実施するとともに、新たに、医療費以外を含む医療関連支出の把握を試みた。

【結果】同調査の2001年末時点で回収された25人の延べ96か月のデータを中間した。1か月の平均外来医療費は、CD4が500以上のHIV、及びCD4が200～499のHIVでは、約18万円であった。AIDS では同程度ないしやや低い傾向であった。終末期の入院医療費の推移についても検討した。

◆拠点病院患者調査

【目的】わが国のHIV感染者、AIDS患者の静態的・動態的受療動向を把握する。

【方法】拠点病院にアンケート調査を行い、HIV感染症患者の受療動向(静態)を把握する調査研究を白阪班の協力を得て実施した。

【結果】回収施設は347施設（95%）であった。HIV/AIDS の受療者は、2001 年4月現在で約4,100 人であった。受療者数には大きな施設間差が見られた。また、他の調査との比較から、診断後に治療・管理の未継続者の存在が示唆された。

◆保健所受検者調査

【目的】保健所における HIV 検査受検者の背景（属性、リスク行動、検査動機）を解明する。

【方法】受検者に、同意の下で、属性、検査動機やリスク行動に関するアンケート調査を実施した。また、HIV 抗体検査に関する C 型肝炎ウイルス抗体検査の影響の検討を試みた。

【結果】2001年10月末時点で回収した2,494人分を中間分析した。年齢分布は、男25-34歳、女20-29歳がピークで、過去に受検経験ありの割合は、男27%、女20%、男女ともに35-39歳で最大であった。受診理由は男女ともに「異性との性的接触」が70%以上であり、それ以外は「陰性報告の提出」、「同性との性的接触」や「薬物注射」であった。2001年度に見られたHIV検査数の上昇は、C型肝炎ウイルス抗体検査の影響であることが判明した。

■ プロジェクト 2: MSM の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究（分担研究者：市川誠一）

研究者、コミュニティ、NGO、行政関係者の協働により、以下の5課題を実施した。

◆MSMにおけるHIV感染の動向に関する研究

【目的】MSM の感染動向をエイズ動向調査及びHIV検査受検者の感染率の推移から検討する。

【方法】関東地区定点検査機関（M検査機関）における検査データとアンケートデータを分析し、MSMのHIV感染率のモニタリングを実施した。

【結果】①2001 年のエイズ動向調査(速報値)では、男性同性間のHIV感染者312人(前年比1.43倍)、AIDS患者90人(前年比1.25倍)が報告され、近畿、東海で明らかな増加が認められた。②M検査機関における2001年のHIV感染者数は67人で、うち同性間感染は54人(76.1%)であり、MSM受検件数中の推定陽性割合は3.2%となった。

◆大阪地域におけるHIV/STD感染予防啓発の推進に関する研究(MASH大阪)

【目的】大阪地区において、MSMの行動変容(性行動、検査)に有用な予防介入モデルを開発する。

【方法】準実験的研究デザインによって、予防パッケージの効果評価を実施した。予防パッケージは個人、集団、社会各レベルの介入を複合し、多様なターゲットにアクセスできるように設計した。

1)個人レベルの予防介入(SWITCH2001)

HIV/STD 予防相談・検査イベント SWITCH 2001 を 5 月の連休に実施した。受検者のリスク低減を目的に検査前相談や、検査後カウンセリングを行い、陽性者は医療機関に紹介した。

2)集団・コミュニティレベルの予防介入(普及啓発):①STD 勉強会、②コンドーム配布、③ホームページによる啓発、④ゲイ雑誌による普及啓発プログラム等を開発し、実施した。

3)MASH 大阪による予防介入の効果評価

大阪市堂山地域のクラブで行動調査(第3次調査)を行い、1999年の1次調査、2000年の2次調査の結果と比較分析した。分析においては、参加群(MASH大阪のプログラム参加者)、情報群(MASH大阪のポスター等の情報に触れた者)、非参加群(プログラム非参加者)に分類して比較した。サンプル数は、コンドーム未使用率の10%減少を有意に検出するために、500人以上とした。

【結果】1)SWITCH2001の結果:受検者数は昨年の1.6倍(401人)で、医療機関紹介者中83.3%が7月末時点で医療機関を受診した。MSM395人中、梅毒9.6%、HBs抗原1.5%、HIV抗体3.3%で、ほぼ昨年並みであった。梅毒の陽性率が高く、STD予防が急務であることが示唆された。

2)MASH 大阪による予防介入の効果評価:HIV①検査受検率(過去1年)は、非参加群では17%～19%と3年間(1次、2次、3次調査)で変動がないのに対し、参加群では20.3%から28.8%へ上昇した。SWITCH の予防相談・検査による受検機会増加の影響と思われる。②エイズ関連知識では、参加群/情報群は、「STD 感染しているとHIVに感染しやすくなる」等の正答率が非参加群に比し有意に高率であった(48.4% vs. 66.7%)。また、「エイズ治療で延命ができる」や保健所の匿名検査や夜間検査の認知も、参加群で高率であった。③コンドーム使用に対する意識・態度では、「好きな人にはつけてと言いにくい」「相手がHIV陰性なら使わない」「その場のムードで使わないことがある」「相手に使ってと言えないことがある」は参加群で改善が見られ、「ハッテン場等での行きずりの相手とはコンドームを使う」は、3次調査では、参加群の66%に達した。「今日はコンドームを持っている」と回答した人は、非参加群16.0%に対し、情報群、参加群は各27.6%、31.0%と有意(P=0.03)に高値を示した。**MASH大阪によって、コンドームへの意識・態度に効果が現われ始めたと考えられる。**④コンドーム使用率でも、非参加群47.1%に対し、情報群63.8%、参加群59.5%と高率であった(p=0.03)。

◆東京地域におけるHIV/STD感染予防啓発の推進に関する研究(MASH東京)

【目的】東京地区において、MSMの行動変容(性行動、検査行動)に有用な予防介入モデルを開発する。

【方法】MASH 東京(2000年6月に結成)により、新宿2丁目を中心とするゲイコミュニティを基礎とした効果的なHIV/STD予防介入プログラムを模索した。本年度は、介入拠点として、MASHROOMを開設し、各種の活動を実施した。

【結果】1)「MASHROOM」の開催

平成12年以来毎月1回新宿2丁目のバーで開催してきたSTD勉強会を発展改組し、知識提供のみならず、グループワーク等を中心にした語り

やすい場として、MASHROOM を開設した。

本年度は以下の点で進展があった；①積極的な宣伝により、参加者は20-30 人/回に増加。②内容をシリーズ化（Safer Sex とコンドーム Part 1 &2、HIV について、STD について）した。③グループファシリテーション技術を向上するための研修を開催した。

2）ニュースレターの発行とホームページ（http://mashweb.com/）の開設

3)ボランティアによる予防相談を計画し、相談員のスキル向上に向けた研修を実施した。

4）新宿保健所主催のゲイ対象の臨時検査イベント（12 月実施）に、都内での他のゲイ関連の NGO/CBO 等団体とともに参加し、①保健所職員対象のセクシュアリティ講座、②検査前後に実施したアンケートの作成と分析、③検査前後相談員の派遣・研修、④MASHROOM CAFE の設置などを行った。

5）MASH 東京活動方針説明会

ゲイコミュニティにMASH 東京の活動を公開し、意見交換を行う目的で、「MASH 東京活動方針説明会」を開催した。

◆米国在住の MSM の行動調査

【目的】在米日本人MSM の性行動やHIV 関連状況を調べ、対比的に日本の状況を照射する。

【方法】サンフランシスコ大学エイズ研究センター(UCSF/CAPS)と共同で実施した在米日本人 MSM に関するデータを性行動、検査とカウンセリングについて分析した。

【結果】①日本在住 MSM における無防備なセックスの割合は26- 36%と、米国のエイズ蔓延地域、（例：サンフランシスコ[30-39%]）と同等の値を示した。②HIV 流行国滞在中も、常時コンドームを使用していない実態が認められた。③日本在住 MSM 感染者の多くは、パートナーに HIV 検査の結果を伝え、多くは、それによりポジティブな結果や反応を経験していたが、一部には、関係の破綻など、ネガティブな反応を経験した者もいた。④在米日本人 MSM は、在日 MSM に比べて、HIV 検査をより多く受ける傾向があった。⑤カウンセリングについては在米MSM の方が満足度が高く、また希望者も多かった。

◆インターネットによる MSM のコンドーム使用と心理・社会的要因に関する研究

【目的】MSM のインターネット利用層の性行動の実態、心理・社会的問題を解明し、インターネットを介した予防介入プログラムを開発する。

【方法】インターネットを介して、自由記述式無記名質問票による横断調査を実施した。

【結果】①セックス時のコンドーム常用率は、国内での MSM の性行動に関する先行研究とほぼ同様の傾向が示された。②アナルセックスにおけるコンドーム常用率は 10 代が最も低率で、過去 1 年間での不使用者は半数以上を占めた。その他の年代の常用率も 11.1%～47.8%と比較的低率で、インターネット利用者に対する予防介入の必要性が示唆された。③自由記述項目からは、コンドーム使用を単に呼びかける画一的な予防メッセージでは、予防介入として十分とは言い難いことが示された。

■ プロジェクト3：来日外国人のHIV/STD関連知識・行動・予防介入に関する研究（木原正博）

昨年度に引き続き、ラテンプロジェクト、タイプロジェクトを実施した。

◆ラテンプロジェクト

【目的】在日ラテンアメリカ系住民に適切な予防介入プログラムを開発する。本年度は、次年度の介入の準備（フィールド開発、人材養成、資材開発）を行った。

【方法=準備状況】平成 13 年 6 月に日伯（日本-ブラジル）プロジェクトが開始し、8 月に中心メンバー3 名が打ち合わせと研修のため渡伯した。

1)**マスメデイアによる予防介入**：ブラジル保健省と共同で在日ブラジル人向け予防介入資材（ポスター、パンフ）を開発した。パンフは、第一次予防介入の結果に基づき、HIV 検査の場所、STD、健康保険等に関する情報を中心としてデザインした。

2)**スクールベース予防介入**：ブラジル人学校にお

ける予防介入の準備を行い、研究プロトコールの作成と、学校との交渉を行った。

3) **予防介入人材育成**:予防活動者育成研修を浜松、名古屋、横浜で実施。在日ブラジル人30名、その他5名（男9、女26）が参加した。研修は、2日間（16時間）で、脆弱性、ジェンダー、性、パワー不均衡、HIV/AIDSと共に生きる、HIV感染症の基礎知識、予防介入をテーマとした。研修後、参加者対し、質問紙調査により事後評価を行った。

4) **感染者支援プロジェクト**: 在日ラテン系住民に提供されている医療の質を把握するため、通院中の患者を対象に、「HIV検査の告知時の状況」、「病院や医師の対応」、「医師患者間のコミュニケーション」などを内容とする質問紙調査を依頼した。20件の回答があった（分析は次年度）。

5) **コンドームのソーシャルマーケティングに関する研究**: 在日ブラジル人を対象としたフォーカスグループインタビュー及び質問紙調査により、①日本製コンドームの問題点（きつい、潤滑剤が少ない、箱の区別が困難）、②滞日年数が短いほど日本製コンドームへのアクセスが悪いことが判明した。これらの成績に基づき、ポルトガル語表示のあるコンドームの開発、アクセスしやすい場所（ブラジル雑貨店）での販売を、来年度実施する。

◆タイプロジェクト

【目的】在日タイ住民に適切な予防介入プログラムを開発する。本年度は、ビデオレンタルをチャネルとした予防介入の対照となる滞日タイ人コミュニティーの探索を行った。

【方法】介入予定コミュニティーと類似した条件、①タイ語のレンタルビデオ店を介した地域ネットワークの存在、②コミュニティーの核となるリーダー的人物がいることを条件に3地区を探索した。

【結果】①第一・第二条件を備えるコミュニティーを見つけることはできなかった。②また不測の事態として、介入予定コミュニティーのインフォーマントが急遽帰国し、同コミュニティーへのアクセスが失われた。③滞日タイ住民コミュニティーの特徴はコミュニティーごとに異なること、コミュニティーの生活・社会環境が短期間に変化していることが示唆された。

■ プロジェクト 4: 薬物乱用・依存者のHIV/STI感染率と行動に関する研究(分担研究者:和田清)

【目的】薬物乱用・依存者におけるHIV/STD感染の実態把握及び注射器・針の使用実態や性行動の調査を通じて、HIV対策の基礎資料に供すること。

【方法】日本の薬物依存治療入院患者の約20%をカバーする7医療機関の新規患者と自助グループのメンバーに、同意の下で、HIV/STIの血液検査と行動調査（注射行動と性行動）を実施した。

【結果】①日本人入院患者群で、1993年の調査開始以来（n=1,868人）初めて1名のHIV感染者を認めたが、薬物静注の既往はなく、タイでのセックスワーカーとの接触によるという。②日本人入院患者群の覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が44.7%と高く、約35～36%に過去1年間にシリンジ／針の共有経験があった。③日本人入院患者群における「あぶり」の経験率は2000年に続いて60%と高く、定着した感がある。④ただし、注射針の共有経験率は低下しつつあり、その一因として「あぶり」の普及が示唆された。⑤日本人入院患者群の過去1年のセックス経験率は、「風俗」26.6%、不特定多数の相手16.1%、国内での外国人6.4%であったが、自助グループ群はそれぞれ、50.0%, 24.3%, 24.3%とより活発で、性行動リスクの高いことが示唆された。

■ プロジェクト 5: STD患者のHIV/STI感染率及び行動に関する研究（分担研究者：熊本悦明）

【目的】STD患者におけるHIV感染浸透度をモニターし、かつHIV感染促進効果のあるSTDの臨床問題を検討し、STD/HIV流行予防のための基礎的資料を提供する。

【方法】関東地方の男性STD患者及びセックスワーカーの血中HIV/STI関連マーカーを匿名非連結法で検査し、経年変化及びHIV感染とSTI感染（特に梅毒感染とHCV）との関連を分析した。

【結果】①1997～2001 年度までに東京地区の男子 STD 症例における HIV 抗体陽性率は、梅毒 4.1%、尖型コンジローム 1.7%、性器ヘルペス 0.4%、性器クラミジア 0.2%とで、陽性症例数が経年的に増加傾向を示している。また大阪地区でも 1995 年以来梅毒症例で徐々に HIV 陽性例が増えつつある。②HCV 抗体陽性率と、HIV 抗体、TPHA、クラミジア抗体、HBc 抗体と関連し、特に TPHA との高い関連を示したことから、HCV 感染にかなり STD 的性格があることが示唆された。

■ プロジェクト 6: 献血及び妊婦に関する研究（分担研究者：清水 勝）

【目的】上昇を続ける献血血液の HIV 抗体陽性率の背景を解明し、安全な血液供給対策に貢献する。

【方法】①全拠点病院を受診している献血発見 HIV 感染者の検査動機や感染経路を調査した。また、初回献血者とリピーターの HIV 抗体陽性率を比較した。②エイズ医療拠点病院（366）に対するアンケート調査、公費で全県妊婦調査を実施している 3 県、および日本産婦人科医会のモニター医療機関（800）のデータから、妊婦の HIV 感染率を推定した。

【結果】献血者：①献血者の HIV 抗体陽性率は上昇の一途で、2001 年には 1.37（10 万対）となった。とくに東京都内 5 センターでは 4.90 と高かった。②初回献血者では 10 万人対 21.1 と特に高値であったが、複数献血者に陽転者が発見されており安全とはいいきれない。③拠点病院受診中の献血発見 HIV 感染者 61 人の推定感染経路は、男性では同性間 66%、異性間 28%で、HIV 検査目的と回答した者は約 10%であった。④連絡のつかない陽性者のあることから、献血会場で個人の特定など新たな手法の必要性が示唆された。

妊婦：10 万検査あたりの妊婦の HIV 抗体陽性率は、拠点病院 16.5、日本産婦人科医会のモニター病院で 3.1、妊婦 HIV 検査を公費負担している 3 県で 0.8 であった。経年的に漸増傾向にある。

■ プロジェクト 7: 若者の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究（分担研究者：木原雅子）

◆地方の高校生の日常生活・性意識・性行動に関する調査

【目的】地方高校生の性行動の実態を明らかにし、予防対策に必要な情報を得る。

【方法】地方 2 県で全県下の高校 2 年生を対象に性行動調査を実施した。A 県では参加校 31、参加者数 4942 人〔男 2260、女 2675〕、B 県では参加校 38 校、参加者数 6839 人〔男 3727、女 3038〕であった。

【結果】男女の約 3 割が小学生時代何らかの性メディアに暴露され、小学校時代にセックスのことを知ったのは、男 6 割、女 7 割に上った。高校 2 年生の性交経験率は男女とも約 2-3 割で、セックスの経験者中、これまでのセックスの相手が 1 人は半数未満で、4 人以上が男女とも 2 割に達し、地方でも性行動が活発であった。STD 予防意識が極めて低く、コンドームの毎回使用者は 2-3 割にとどまり、地方の 10 代若者の無防備さが明らかとなった。また、セックスの相手が多い人ほど、コンドームの使用率が低かった。

◆都会の若者に対するクラブイベント調査

【目的】都会のクラブに集まる若者たちの性行動と STD 感染実態を把握する。

【方法】首都圏某市内のクラブにて、HIV/STD 関連知識・性行動に関する質問紙調査および自己サンプル採取によるクラミジア抗原検査を実施した。質問紙調査の回収数は男性 169（15.7%）、女性 173（24.1%）。一方、クラミジア抗原検査参加数は、男 92（8.5%）、女 37（5.1%）であった。

【結果】これまでの相手が 5 人以上は、男 74.4%、女 50.6%）で、コンドーム常用者は 1 割程度、かつセックスの相手が多い人程コンドームを使わない傾向が示された。クラミジア検査受検者は、非受検者より、性行動が活発で無防備であった。クラミジア抗原陽性率は男 11%、女 14%であった。陽性者のうち過去 1 年間に STD 検査を受けた者

は1割強、HIV検査は皆無であった。

サンプルの偏りはあるが、高リスク者の性・検査行動、クラミジア陽性率に示唆が得られた。

◆サンフランシスコおよびその近郊在住日本人留学生の性的健康に関する研究

【目的】日本人米国留学生の行性行動と薬物使用の実態を明らかにする。

【方法】米国の日本人留学生の性的健康に関する調査研究は不明だったため、サンフランシスコ及び近郊在住の日本人留学生を対象に、性行動等に関する調査を実施した。

【結果】過去1年間の特定・不特定のセックスの相手いずれにおいても、コンドーム常用率は比較的低率であった。また、過去1年間のマリファナ使用率は15.6%～22.4%であり、エクスタシー等のパーティ・ドラッグも使用されていた。

◆親・子・教師の意識・知識の違いに関する調査

【目的】高校生を取り巻く環境として、親及び教師の性意識や知識の実態を調べ、子供と対比させる。

【方法】B県全域の高校2年生及びその保護者、教師を対象にHIV/STD関連知識・性意識に関する質問紙調査を実施した。回収数は、高校生6285名(回収率88.0%)、男性保護者319名(18.6%)、女性保護者337名(19.6%)、教師738名(55.7%)であった。

【結果】高校生と大人(保護者・教師)の間には、性規範に大きなギャップが存在した(高校生のセックス容認率は、高校生男子68%、女子56%で、教師・保護者では5%以下)。母親との会話の程度と性交経験率との間には逆相関が見られた。一般に、教師より保護者の方が性教育に消極的で、保護者に対する報提供の必要性が示唆された。

◆性教育実態調査

【目的】小・中・高の性教育の時期と内容を調べ、HIV/STD予防の観点からその適切性を評価する。

【方法】B県全域の小中高校の養護教諭を対象に性教育の実態調査を実施した。対象校で性教育を担当している教師と相談の上回答してもらい、郵送調査で回収した。回収総数は657校(回収率63.0%)で、小学校が402(62.7%)、中学校183(65.8%)、高等学校72(58.1%)であった。

【結果】主なエイズ教育は高校2年生に集中しており、性メディア暴露やセックス認知の早さ(小学校時代)、性経験率の高さを考えると、実施時期が遅いことが示唆された。実際のコンドーム使用に関する具体的教育が不足していた。性教育のかなりをクラス担任が担っている実態が判明し、クラス担任への情報提供の重要性が示唆された。ビデオ・スライドなどの視聴覚教材や教師作成のプリントの使用頻度が高いことから、これらの教材の提供が必要であることが示唆された。

◆地方の高校生に対する予防介入研究

【目的】高校生におけるHIV/STD予防教育について、わが国の条件化で可能なモデルに関するエビデンスを提供する。

【方法】地方B県某高校において、準実験的研究デザインによる予防介入研究を実施した。介入群=B県のC高校(男515、女28)、比較群=B県のD高校(男422、女1)。介入群では、介入前後に質問紙調査を実施し、さらに介入後にフォーカスグループインタビュー(FGI)による介入評価を行った。比較群では、介入群と同時期に質問調査を2回実施し、通常の保健体育の授業を実施した。介入(授業)は各学年1単位時間(50分)で、学年単位の集団教育という制約下で行われた。介入においては、ソーシャルマーケティングに準じ、①リスク感受性、②文化的感受性、③行動理論(行動変容段階モデルと社会学習理論等)、④メッセージの単純化と反復(クラミジアと妊娠予防に焦点)を戦略的に取り入れた。

【結果】介入効果は、学年で大きく異なり、1年生では、知識・意図・行動のいずれも改善したが、2年生では知識・意図、3年生では知識のみの変化にとどまり、早期教育の必要性が示唆された。また、知識上昇が、必ずしも行動変容にはつながらないことが示された(2年、3年)。介入条件は著しく制限されたが、ソーシャルマーケティング的手法に基づいた予防介入を用いれば、効率的に

効果が生まれる可能性が示唆された。**準実験的デザインに基づくわが国最初の学校ベースの予防教育研究であり、かつ今後の展望を拓くエビデンスを示すものとなった。**

◆フォーカス・グループ・インタビュー（FGI）を用いた予防介入の評価検討

【目的】質的方法により、予防介入の効果を評価し、より適切な予防教育モデルの創出に資する。

【方法】上記予防介入研究を実施したB県某高校の19人の男子生徒（全学年）を対象に、介入の質的効果評価および今後の予防介入研究の参考となる情報を得る目的で4つのFGIを実施した。

【結果】①コンドーム入手は「買うならコンビニ・薬局・自販機／もらうなら友達・彼女・家族」であり、好まれるのは「安い、薄い、臭わない、素早いコンドーム」である。②コンドーム使用目的は「避妊・中出し・早漏対策」であり、「性病予防は目的外」であることが示唆された。③有効な避妊法としては「ゴムなしなら外出し・安全日」、STD予防方法には「コンドームが1番･･･」と認識されていた。コンドーム使用とコミュニケーションの関連性については、「話せばつける」可能性が増す傾向が示唆された。

◆性行動に関する質問紙調査の信頼性の検討

【目的】性行動調査質問票の信頼性 reliability を検討する。

【方法】A短期大学55名とB看護学校121名の女子学生を対象に調査を行った。同一個人に対し1週間間隔で2回、同じ質問票調査を実施した。共通回答者はA短期大学51名（92.7%）、B看護学校104名（86.0%）であった。

【結果】A,B 両校の性行動項目の信頼性係数κ（カッパ）は、性経験の有無0.97、初交年齢0.93、過去6ヶ月間のコンドーム使用状況0.88であり、エイズ/STD関連知識の相関係数は0.83であった。サンプル・調査間隔等の制限はあるが、海外の先行研究とほぼ同程度の高い信頼性の得られることが示された。

■ プロジェクト 8: セックスワーカーのHIV/STD関連知識・行動および予防介入に関する研究（分担研究者：池上千寿子）

【目的】当事者が研究主体となり、①性風俗産業の現状の把握、②セックスワーカー(SW)のHIV/STD関連の知識・行動実態の把握、③勉強会等を通したネットワーク形成、④SWへの予防・支援対策の開発を行う。

【方法及び結果】①質問紙調査：東京地区では風俗系新聞社の協力を得てヘルス15店舗で、関西地区では、STDクリニック（1ヶ所）で実施した。②勉強会：産婦人科医の協力を得て、からだ、STD、内診、ホルモンなどのテーマで定期的に実施したが、新規参加者を獲得できず、参加形式のワークショップの限界が示唆された。③保健所相談機関むけリーフレットの作成：SWからの相談電話をうける可能性のある保健所や相談機関（NGO）向けのパンフレットを製作するために6か所の相談機関に対して具体的なニーズを把握する予備調査を実施した。

■ プロジェクト 9: 特別研究
HIV感染者の行動やQOL向上に関する研究

【目的】HIV感染者の社会生活における困難の実態と要望、その背景にある要因の解明、必要な支援策への示唆を得る。

【方法と結果】参加型リサーチ方式により昨年度実施した予備調査（属性、特性、健康状態、社会関係、性行動、抑うつ・不安等）の結果を討論・吟味し、次年度の大規模調査のプロトコールを作成した。

D. まとめと考察

性行動研究から予防介入研究へ

エイズ疫学研究は、前進の研究班（HIV感染症の疫学的研究班）の期間を含め、段階的構想に基づいて推進されている。第一段階は、性行動研究の開拓、第二段階は、それを基礎とした予防介入研究の試行、第三段階は、多様な予防介入モデル

の開発とコミュニティレベルでの展開である。集団ごとに進展速度は異なるが、研究はそのグランドデザインに沿って、ほぼ順調に遂行されている。

HIVに関連する性行動研究は、わが国では未踏の分野であったため、実施準備に数年を要し、かつ多大の困難に直面しての実施であったが、幸いその成果が、大きな社会的関心を呼び、それが契機となって、性行動研究への社会的理解が進み、円滑とまではいかないまでも、本年度のように地方高校生を対象とした大規模調査が可能となる状況が生まれるに至った。現在わが国は、若者の性行動実態について、異性間、同性間を問わず、アジア地域でもっとも豊富な情報を集積した国として評価されている。こうした性行動研究の土壌の上に、現在疫学的デザイン（準実験的デザイン）に基づく予防介入研究がいくつかの個別施策層、すなわち、MSM、若者、滞日外国人で展開されつつある。

予防介入研究の到達点

・MSMの予防介入研究

MSMにおける予防介入研究は、1998年にMASH大阪の結成をもって始まり、研究者、コミュニティー、NGO、行政のパートナーシップを基礎に、現在、文字通りコミュニティレベルの取り組みに発展している。予防介入は、試行錯誤を経つつ、行動理論とマルチレベル（個人、集団、コミュニティ）の介入に整理され、数年を経て、検査行動の誘発に明らかな効果をあげることに成功した。セイファーセックスの普及についても、その効果を示唆するデータが初めて明確に捕らえられるようになり、コミュニティレベルの予防に、わが国で初めて展望を示す取り組みとなった。MASH大阪は、さらにコミュニティーへの浸透を強めており、今後より一層明確な行動変容効果をもたらすことが期待される。

・若者の予防介入研究

若者の予防介入研究は、本年度初めて、比較群を持つ準実験的デザインによる試みが行われた。50分の学年単位の集団教育という制約された条件下で行われたこの研究では、地域固有のデータ（人工妊娠中絶、性感染症）と学校固有のデータ（性行動）により、対象のリスク感受性を高め、中絶・性病と身近な問題に焦点を絞り、単純なメッセージを繰り返すという戦略のもと、講義（地域のリスク、性行動）、ビデオ（中絶、クラミジア）、コンドーム実演という内容で実施された。この研究では、学年ごとの効果に興味深い違いのあることが示唆された。実施2ヶ月後の評価で、知識は全学年で大幅に増加し、コンドーム使用への態度変容は1、2年に、コンドーム使用への行動変容は1年のみに観察された。この研究は、わが国で最初の学校ベースの予防介入であり、①知識が上昇しても行動が変化しない層がある、②学年が低いほど行動変容を導きやすい、ことを示唆した点で重要である。この研究の経験と知見を基に、次年度には、自治体レベルでの予防介入研究を実施する。

・滞日ブラジル人の予防介入研究

滞日ブラジル人の予防介入研究（ラテンプロジェクト）は、母国政府の予算措置も得て、移民先NGO、当研究班、母国政府が共同するという世界で初めてのモデルケースである。それまでのNGOと当研究班の取り組みが評価されて実現した。本年度は、NGOメンバーが母国に招請され、予防介入について、2ヶ月間トレーニングを受け、マスメディアキャンペーン用の資材の開発、予防介入人材養成、学校ベースの予防介入の準備、コンドームソーシャルマーケティングのための調査と製品開発を実施した。来年度に、ベースライン調査、介入実施、事後評価が行われる。

このように、本年度は、予防介入研究について、技術的な蓄積が進み、本格的な展開を可能とする条件が相当整ったと評価している。また、MSMと若者では、実際の予防効果に関するエビデンスが初めて提示もされ、わが国の予防介入研究は、新しい段階に入ったと総括できるだろう。

E. 結論

わが国のHIV感染流行は、加速局面にあるが、予防介入研究も蓄積が進んだ。アジア大流行の影

響でわが国の流行が本格化する前に、予防介入研究のできる限り急速な深化と拡大が求められる。

F. 研究発表

著書

1. 木原正博. HIV 感染はどこまで広がっているか.「エイズを知る」(エイズ&ソサイエティ研究会議編)、pp97-112、角川書店、2001年
2. 木原雅子. エイズ予防学とは何か.「エイズを知る」(エイズ&ソサイエティ研究会議編)、pp141-152、角川書店、2001年
3. 木原正博、木原雅子他. 日本人の HIV/STD 関連知識,性行動,性意識についての全国調査. 教育アンケート調査年鑑上、pp94-105, 創育社,東京,2001年
4. 木原雅子、木原正博他. 全国国立大学生 Sexual Health Study 調査報告書. 教育アンケート調査年鑑上、pp105-112, 創育社,東京,2001年
5. 木原雅子. STD と性行動.「性感染症／HIV 感染」(熊本悦明他編)、pp70-73、Medical View 社, 東京、2001年
6. 熊本悦明. 日本の性感染症流行の現状 「性感染症／HIV 感染」(熊本悦明他編)、pp18-36、メジカルビュー社、東京、2001.

論文（総説）

1. 木原雅子、木原正博. 若者の性行動と性感染症予防対策. 日本医師会雑誌 126: 1157-1160, 2001
2. 木原正博、木原雅子. 日本の HIV 流行の現状と課題（特集：2001HIV 感染症対策ストラテジー). 総合臨床 50: 2657-2663, 2001
3. 木原雅子、木原正博. HIV 流行予防のストラテジー（特集：2001HIV 感染症対策ストラテジー). 総合臨床 50:2789-2793, 2001
4. 木原雅子、市川誠一、山本太郎、木原正博. 日本人の性行動の現状と予防対策の戦略－性的ネットワークと行動理論. 治療学 35: 85-88, 2001
5. 木原正博、木原雅子、市川誠一、山本太郎. ネットワーク化する若者の性行動と HIV/STD 感染リスク。保健婦雑誌, 57:490-493, 2001
6. 木原雅子、木原正博. 性行為感染の実態と予防対策（特集：HIV 感染の現状と今後). Infection Control 10:790-792, 2001
7. 市川誠一、木原正博. 感染者・患者動向からみた最近の疫学的感染状況. Infection Control 10:746-751, 2001
8. 木原正博. HIV 感染症の疫学：日本の動向と将来予測（特集「エイズと HIV 感染症の現状と今後の展望」）,カレントテラピー 19:12-15, 2001
9. 木原正博、木原雅子、内野英幸. 更年期男性の性行動と性意識. ホルモンと臨床 49:25-30, 2001
10. 市川誠一、木原正博：感染者・患者動向からみた最近の疫学的感染状況、INFECTION CONTROL、10:18-23、2001.
11. 市川誠一、木村博和、鬼塚哲郎、松原 新、佐藤末光、井戸田一朗：MASH による啓発活動、総合臨床、50: 2805-2810、2001.
12. 木原正博, 木原雅子. これからの HIV・STD 予防対策－最近の HIV 感染動向を踏まえて. 生活教育 45:7-12, 2001
13. 熊本悦明、塚本泰司、利部輝雄、赤座英之、野口昌良、守殿貞夫、碓井 亞、香川征、内藤誠二、簑輪真澄、谷畑健生：本邦における性感染症(STD)流行の実態調査—2000 年度の STD・センチネル・サーベイランス報告— 日本性感染症学会誌, 2001, 12: 32-67.
14. 熊本悦明、南邦弘、蛯名紀子、瀬戸俊之、斉藤益子、赤枝恒雄、松田静治、西村昌宏：日本における性感染症流行—若い女性を中心としたクラミジア感染症大流行の実態— 総合臨床, 2001, 50: 2676-2685.
15. 熊本悦明：女性優位の STD 時代 臨床婦人科産科, 2001, 55: 10-18.

16. MAP（共著）. The status and trends of HIV/AIDS/STI epidemics in Asia and the Pacific, MAP, October 4, 2001

論文（原著）

1. Ono-Kihara M, Kramer J, Bain D, Kihara M, Mandel J. Knowledge of and attitudes towards contraceptive pill use in Japan-Results of a national survey. Family Planning Perspectives, 33(3),123-127, 2001
2. Ono-Kihara M, Kihara M. First nationwide sexual behavior survey in Japan-results of HIV&Sex in Japan 1999". J. Asian Sexology 2, 65-672002
3. Kihara M, Ono-Kihara M, Feldman MD, Ichikawa S, Hashimoto S, Yamamoto T, Kamakura M. HIV/AIDS surveillance in Japan, 1984-2000, J.AIDS(suppl.), 2002 (in press)
4. 梅田珠実, 木原正博, 橋本修二, 市川誠一, 鎌倉光宏, 嶋本　喬. 日本の異性間性的接触によるエイズの特徴ーエイズサーベイランスによる英国及び米国との比較研究. 日本公衛誌 2001; 48: 200-208.
5. 木原正博, 木原雅子、内野英幸. 全国性行動調査からみた更年期男性のセクシュアリティ. 日本更年期医学会雑誌 9: 97-102, 2001
6. 中村好一, 渡辺晃紀, 谷原真一, 橋本修二. HIV/AIDS 感染経路不明者の追跡調査と届出の問題点. 厚生の指標, 2001;48(5):26-29.
7. 橋本修二, 福富和夫, 山口拓洋, 松山　裕, 中村好一, 木村博和, 市川誠一, 木原正博. HIV 感染者数と AIDS 患者数のシステム分析による中長期展望の試み. 日本エイズ学会誌 4, 8-15,2002.

学会発表（シンポジウム）

1. 厚生労働省 HIV 感染症の疫学研究班、MASH 大阪、MASH 東京、(財) エイズ予防財団：MSM における HIV/STD 感染とその予防に向けて、第 15 回日本エイズ学会総会サテライトシンポジウム、東京、2001.11.30
2. 小堀栄子、内野ナンティア、木原雅子、木原正博. 滞日タイ人におけるＨＩＶ予防対策の探求。第15回日本エイズ学会。シンポジウム「滞日外国人のエイズ予防対策の将来像を探る」. 東京、2001.11.30
3. 市川　誠一：「STD control」—STD の流行をどうするか?—エイズ啓発を振り返って、第 15 回日本エイズ学会総会 STD 学会合同シンポジウム 2001.12.01
4. 熊本悦明. この性感染症流行の現状を直視して欲しい. 日本性感染症学会第 14 回学術大会シンポジウム「STD Control」、2001 年 12 月、東京
5. 木原正博. セクシュアルネットワークと性感染予防. 日本性感染症学会第 14 回学術大会シンポジウム「STD Control」、2001 年 12 月、東京
6. Kihara M. Current situation of HIV/AIDS ion Japan. MAP symposium, Melbourne, 2001.10.4
7. 木原正博. 性感染症の流行に対する有効な抑制対策は？一性行動・性意識など社会医学的見地から. 日本性感染症学会第 14 回学術大会ランチョンセミナー、2001 年 12 月、東京
8. 木原正博. エイズの疫学とひろがりのパターン. 第 13 回日本臨床微生物学会総会. シンポジウム「エイズ・薬物乱用」、2002 年 1 月

学会発表（一般演題）

1. 橋本修二、山口拓洋、川戸美由紀、中村好一、木村博和、市川誠一、木原正博、白阪琢磨. 拠点病院における HIV/AIDS の受療者数. 第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001 年 12 月
2. 木原雅子、木原正博、小松隆一、大屋日登美、市川誠一. 首都圏の 10 代若者のセクシュア

ルネットワークについて－首都圏繁華街カップル調査の結果より．第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001 年 12 月

3. 木原雅子、木原正博、前田規子、山崎浩司、片峰茂. 地方(A 県)の 10 代若者の HIV/STD 予防行動について－全県高校生エイズ予防のための基礎調査より．第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001 年 12 月
4. 日高庸晴、木原雅子、木原正博．サンフランシスコ在住日本人留学生の性行動に関する研究．第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001 年 12 月
5. 桃河モモコ、沢田司、水島希、池上千寿子、木原正博、木原雅子、要友紀子．非本番系風俗産業で働くセックスワーカーの実態調査及び STD/HIV 感染予防行動－予防介入の可能性．第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001 年 12 月
6. 日高庸晴：エイズ問題の解決に向けた学際的アプローチ(2), 第 42 回日本社会心理学会, 愛知学院大学, 2001.10.14
7. 日高庸晴：性と心理臨床, 第 20 回日本心理臨床学会, 日本大学, 2001.9.16
8. Hidaka, Y. : Mental health and school-based verbal abuse among Japanese gay and bisexual men. 129th Annual Meeting of American Public Health Association (APHA), Atlanta, 2001.10.22
9. Ono-Kihara M et al. Current condom use and its implications for HIV/STD prevention among Japanese university students: results of a nationwide university student sexual health study in 1999. The 6th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Melbourne, 2001.10.8
10. Kihara M. et al. Toward epidemic: current situation of HIV/AIDS, STDs and risk behaviors in Japan. The 6th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Melbourne, 2001.10.8
11. Onitsuka,T . Matsubara, A. Tsuji, H. Satoh, T. Kimura, H. Onizuka, N. Ichikawa, S. : Analysis on MASH-Osaka Project – the first HIV prevention intevention project in Japan, The 6th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Melbourne, 2001.10.8
12. Hidaka,Y., Ichikawa,S., Kihara M : Psychological issues around HIV risk behaviors among Japanese MSM, The 6th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, Melbourne, 2001.10.8
13. Hidaka, Y., Ichikawa, S., Kihara M. : Milestone events among Japanese gay and bisexual men. 109th Annual Meeting of American Psychological Association (APA), San Francisco, 2001.8.24
14. 木村博和、市川誠一、他：新宿 2 丁目地区の若い MSM の HIV 予防に対する知識と行動、第 60 回日本公衆衛生学会総会、香川、2001.11.01
15. 市川誠一、他：大阪地域の MSM 向け臨時 HIV／STD 予防相談・検査の受検者の特性、第 60 回日本公衆衛生学会総会、香川、2001.11.01
16. 鬼塚哲郎、市川誠一、他：大阪地域における MSM への HIV/STD 予防啓発のニーズとプログラム、第 60 回日本公衆衛生学会総会、香川、2001.11.01
17. 木原正博、市川誠一、他：HIV/AIDS 関連サーベイランスの国際比較、第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001.11.29
18. Kyung-Hee Choi * Seiichi Ichikawa 、他：HIV Risk Behavior and HIV Testing and Counseling Experience of Japanese Men Who Have Sex with Men (MSM)、第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01
19. 木村博和、市川誠一、他：大阪地域における

MSM を対象とした臨時 HIV/STD 予防相談・検査(Switch2001)の受検者の特性、第15回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01

20. 鬼塚哲郎、市川誠一、他：MASH 大阪・Switch2001 における臨時予防相談・検査を実施して、第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01
21. 佐藤未光、市川誠一、他：東京地域の MSM に向けた HIV/STD 感染予防活動のニーズ、第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01
22. 市川誠一、他：大阪地域の MSM における HIV・STD 感染の予防啓発介入研究. 2.第2次質問紙調査(2000 年調査)による予防介入の評価、第15回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01
23. 井上洋士、市川誠一、他：大阪での臨時 HIV/STD 検査（MASH 大阪・Switch2001-B）に対する利用者の評価、第15回日本エイズ学会総会、東京、2001.12.01
24. 熊本悦明、澤畑一樹、木原正博. 関東地区で収集された臨床分離淋菌株における薬剤耐性の年次的進行状況. 日本性感染症学会第14回学術大会、2001 年 12 月、東京
25. 松田静治、熊本悦明. 女子高生の自発的スクリーニングによるクラミジア・淋菌及びＨＰＶ検出率—高校保健室を通じた膣分泌自己採取法の検討. 日本性感染症学会第 14 回学術大会、2001 年 12 月、東京
26. 霜山龍志. 統一問診票の誕生と推移—私見を交えて. 血液事業、24(4), 73, 2001
27. 霜山龍志、田中聖子、金子千浪、加藤俊明、池田久實. ＨＩＶの輸血感染を撲滅するための試みとして血液センターにおけるＨＩＶ検査サービス、4、37-42, 2002
28. Mizushima, N. et al., HIV/STD-Related Knowledge and Prevention Among Sex Workers Working in Non-Vaginal Intercourse, the Sixth International Congress on AIDS in Asia and the Pacific to be held in Melbourne, Australia on 5-10 October 2001
29. Mizushima, N. and Sawada, T., The situation concerning HIV/STD prevention among sex workers in Japan, The international expert meeting addressing Gender and HIV/AIDS issues, Tokyo, July 24-25, 2001 (organized by ASIAN WOMEN'S FUND
30. Sawada, T. et al., Sex workers' Workshop Around HIV/STI Alternative Prevention, the Sixth International Congress on AIDS in Asia and the Pacific to be held in Melbourne, Australia on 5-10 October 2001
31. 井上洋士、山崎喜比古、若林チヒロ、関由紀子、木原正博. ＨＩＶ感染者の性行動と社会関係と精神健康に関する研究. 第 15 回日本エイズ学会総会、東京、2001 年 12 月
32. 井上洋士、山崎喜比古、若林チヒロ、関由起子、木原正博：HIV 感染者の性行動と社会関係と QOL に関する研究、第 27 回日本保健医療社会学会総会、東京、2001.5.20
33. 井上洋士、山崎喜比古、若林チヒロ、関由起子、木原正博：HIV 感染者の社会関係に関する研究－性行動をも含めて－、第 7 回 HIV/AIDS 看護研究会総会・研究発表会、東京、2002.2.3.

G. 知的所有権の取得情況

特になし。

HIV感染症の発生動向解析に関する研究
—HIV感染症の発生動向解析研究グループの平成13年度研究総括—

グループ長：橋本修二（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻）
班　　員：福富和夫（国立公衆衛生院特別研究員）
中村好一（自治医科大学公衆衛生学）
木村博和（横浜市立大学医学部公衆衛生学）
市川誠一（神奈川県立衛生短期大学公衆衛生学）
城所敏英（中野区南部保健福祉相談所）
木村　哲（東京大学大学院医学系研究科感染制御学）
岡　慎一（国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター臨床研究開発部）
白阪琢磨（国立大阪病院総合内科）
松山　裕（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療統計学）
研究協力者：岩名輝美恵（東京都衛生局医療福祉部感染症対策課エイズ対策）
梅田珠実（神戸市保健福祉局）
長谷川嘉春（相模原市保健所保健予防課）
田村嘉孝（大阪府健康福祉部地域保健福祉室感染症難病対策課）
渡辺晃紀（栃木県保健環境センター企画情報部）
谷原真一（島根医科大学医学部環境保健医学第一講座）
増田剛太（東京都立駒込病院感染症科）
相楽裕子（横浜市立市民病院感染症科）
岩本愛吉（東京大学医科学研究所付属病院）
坂本光男（横浜市立市民病院感染症科）
藤　純一郎（国立大阪病院総合内科）
村上未知子（東京大学医科学研究所付属病院）
山口拓洋（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻）

研究要旨　HIV/AIDSに関する様々な情報を収集・解析、発生動向を明らかにするために、「エイズ発生動向調査の解析」、「保健所情報の解析」、「医療費情報の解析」、「将来予測」、「拠点病院情報の解析」の５プロジェクトを、昨年度に立案した研究計画に沿って実施した。エイズ発生動向調査の解析では、日本国籍HIV/AIDSの先進諸国との比較によりその特徴を明確にするとともに、HIV感染から自覚までの期間およびAIDS発病前の検査受診状況を把握した。保健所情報の解析では保健所におけるHIV検査受診者調査を実施・中間報告するとともに、保健所におけるHIV抗体検査に対するＣ型肝炎ウイルス抗体検査の影響を検討した。医療費情報の解析では、HIV/AIDS医療費調査を実施・中間報告するとともに、HIV感染症患者の医療関連支出に関する研究を行った。将来予測では、近未来予測の基礎的検討により、1998年実施の予測値がほぼ妥当であること、および、HIV感染報告の捕捉率の算定方法として初回AIDS報告に基づく方法を新たに提案した。拠点病院情報の解析では「HIV感染症の医療体制に関する研究班」との共同研究として、HIV/AIDSの受療状況に関する静態調査を実施し、全国のブロック拠点病院・拠点病院におけるHIV/AIDSの受療状況を把握した。各プロジェクトごとに、次年度、同研究計画の３年目研究を実施する予定である。